

道路及河川の愛護獎勵に就て

宇都宮 靜男

道路及河川の愛護獎勵と言ふことは、私が役所で擔當して居る仕事になつて居るのであるが、此の外に私は、訴訟、訴訟及び土地收用と言ふ重要な仕事を持つて居るので、平素は其の調査研究に忙殺されて、愛護獎勵と言ふ方は、勢ひ片手間仕事になり勝ちである。併し實質的に考へて見ると、道路及河川の愛護運動は、可成り重要な、而も仲々容易ならざる事項であると思ふ。

大體人を使ふと言ふことが、容易でないのみならず、只で仕事をして貰ふと言ふのだから、益々以て六ヶ敷い事である。以下簡單に私の所感の一端を述べて見たいと思ふ。

抑々道路及河川の愛護と言ふことは、我が國古來の慣習として、行はれ來つた所であつて、各地方部落民が一團と

なつて作業し、或は道路の凹凸直し、路面路肩の除草、側溝浚渫等に從事し、或は河川の流通を圖り、河岸の除草をなしたことは、既に克く知られて居る所であつて、我國古來の淳風美俗をなして居るのである。従つて各府縣に於ても、これが愛護を獎勵して居るのであるが、實績は果して何うであるか。

近時赤十字精神に基いて、少年赤十字團や其の他の團體が、各國民學校に結成せられ、教職員の指導と相俟つて、兒童の教化善導に相當貢獻して居る様である。即ち此等の團體は或は早朝に起き出で、或は學校の放課後氏神様の境内、道路又は河川の清掃除草をなすのである。斯くして各府縣に於ても相當に成績を擧げ、表彰せられて居るものが

多いのである。

少年赤十字團乃至少年團の如き、國民學校の斯くの如き善行は、郷黨に感化を及ぼすのは當然であつて、或は部落民中一定の資金を此等の團體に提供するものを生じ、或は又部落民自ら此等の團體と相並んで、愛護作業に従事して居るものもある。

併し概して言へば、部落民に依る愛護作業は、餘り盛んな状態ではない様である。勿論關係者は聲を大にして、精神運動に訴へて、獎勵しては居るが、成功しては居ない。更に大東亞戰爭が始まつて以來、生産力擴充、増産獎勵等の爲に農村の若き者は或は應召、或は軍需工場に奉仕して、人的資源に缺乏を來し、爲に愛護運動は漸く下火になつて來たかの觀があるのは遺憾である。

他方これが愛護獎勵に當るべき當事者の中にも、或は此の増産獎勵、人的資源缺乏の時代に、道路や河川の美化作業は、到底不可能であるとなす者すらある状態である。

併し道路や河川の愛護は、美化作業ではない。私は然う

言ふ聲を聞く度に、何時も斯う言ふて居るのである。即ち

如何にも道路及河川の愛護と言ふことが、美化作業そのものであるならば、斯う言ふ時代に於ては、夫れは贅澤と言はれても、致し方はない。又事實道路河川の愛護と言ふことが、斯う言ふ意味に解釋せられて來た傾はある。併し今や大東亞戰爭に直面して、此の道路河川の愛護と言ふことも、其の意義を轉換せんとして居るのである。日本臣民は天壤無窮の皇謨を輔翼し奉る——算克彦博士の言葉を借りて言へば輔翼表現人——である。美化作業勿論不可ではないが、今や凡ては大東亞戰爭完遂の爲の一翼として、働かねばならない。道路河川の愛護も、昔日の美化作業より轉化して、生産力擴充乃至増産と直接の關聯を持つものとして觀念されねばならない。其處に私は愛護と言ふことの時代的意義があると思ふのである。

概して言へば、國道府縣道と言ふものは、相當に立派であるから、少し位草が生えても良いと迄は言はないが、夫れよりも寧ろ増産の爲になる様な——生産力の擴充になる

様な——愛護と言ふものが、只今の時代には要求されて居ると思ふのである。

例へて言へば、茲に農地があり、一定の距離に其の部落があつて、これを連絡する耕作道路が非常に悪いと言ふ場合、即ち此の耕作道路は府縣道でも町村道でもない道路ではあるが、これを修繕するのに、愛護團體の力を藉りるならば、夫れは大いに増産乃至生産力の擴充の爲になるのであつて、直接に部落民の爲になる愛護であると思ふ。或は又先達全國的に風水害が相當にあつたが、道路が崩壞したり、河川の護岸が決潰した處がある筈である。其の被害箇處の修理をなすに當り——大きな被害でない限り——部落の區長なり、其の他の顔役に話をつけて、愛護作業を以てこれを修繕すると言ふことが考へられる。此等は直接に部落民の爲になる仕事であり、而も放つて置けぬ——のつびきならぬ必要——に差迫つて居るのであるから、部落民も着いて來る筈であつて、これは指導者の誘導の仕方一つで愛護作業が立派に出來る譯である。

要之愛護運動も増産乃至生産力と直接の關聯を持つ様な方向に轉換せしめ、眞に部落民の爲になる様に努め、而も今急にこれを全般的に實現することが困難であるならば、被害箇處の一二に就いて、直ちに愛護團體を動かして修繕せらるゝよう、手近な所から實行に移さんことを切に希望するものである。斯くすれば此の種愛護運動は、時代より置き去られることなく、大いに發展するものと信ずるのである。(終)

